

## スギナ

すぎな  
杉菜

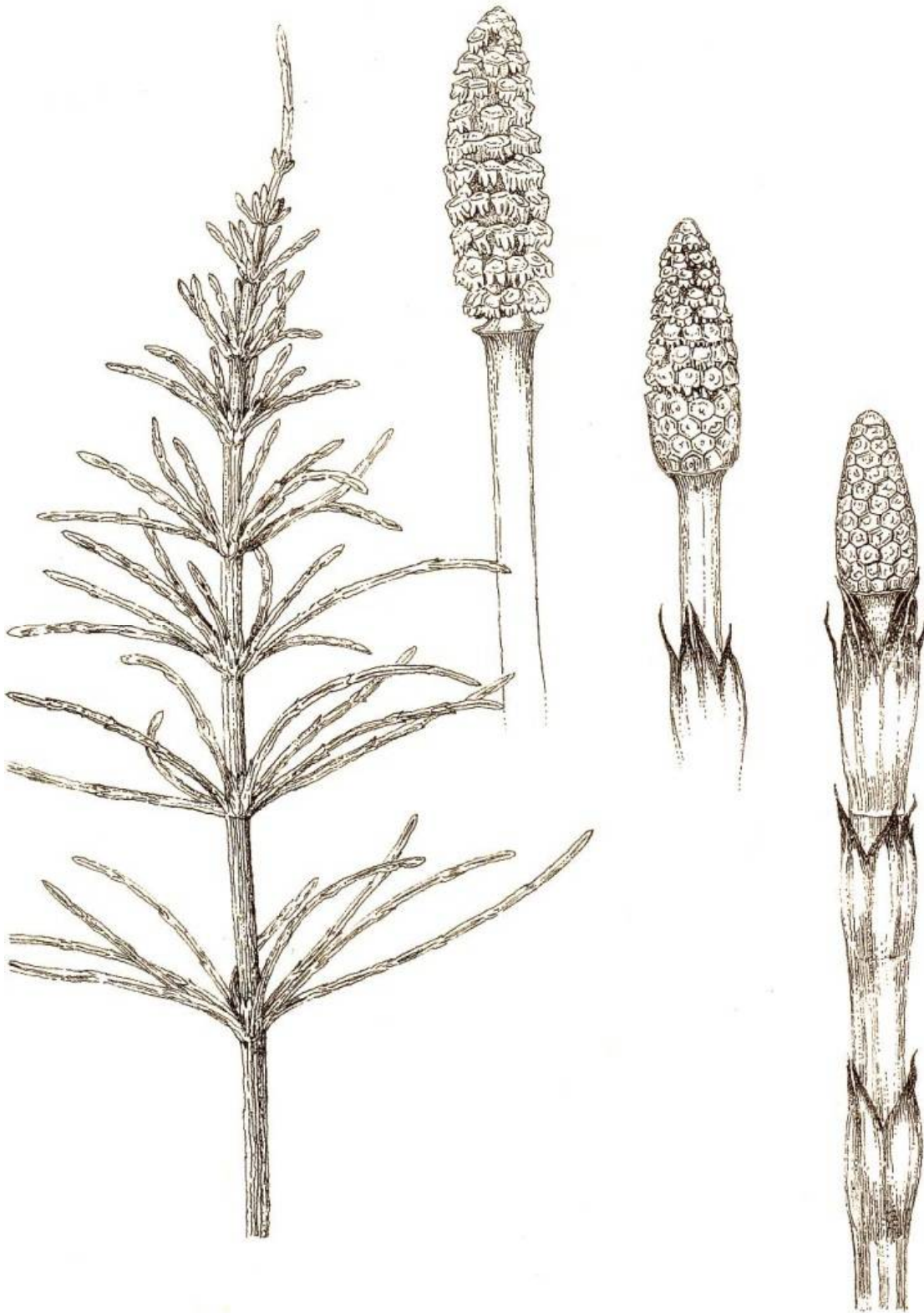
トクサ科

地獄の底からよみがえった雑草

「すぎな」という名前より、春の風物詩として親しまれている「つくし」のほうをよくご存じの方が多いのではなからうか。かわいらしい姿のツクシは子どもたちに人気がある。ツクシ摘みを楽しんだ昔をなつかしく思い出される方もいるだろう。また、ツクシは野草料理の材料としてあまりにも有名である。特有の苦みは大人たちには春の情緒を感じさせてくれる。年齢、性別を問わず、ツクシは誰からも愛されるが、スギナは畑の雑草として忌み嫌われている。

しかし、「つくし誰の子、すぎなの子」と歌われるように、スギナとツクシはもちろん同一の植物である。ただし、ツクシはスギナの子どもではない。スギナは他の多くの雑草と異なり、シダ植物なので胞子で増える。ツクシはこの胞子を作る胞子茎であり、ふつうの植物では花に相当する器官である。

ツクシの穂には、約二百万個もの微細な胞子が入っているといわれる。六角形の詰まった幾何学模様のツクシの穂が開くと、胞子が飛ぶ時期である。胞子は乾燥すると四本



の糸を四方に伸ばす。この糸によって胞子は風に乗り、飛び立っていくのである。

スギナは原始的な植物であるため、茎と葉とがはっきり分化していない。葉のように見える細く分かれた枝は茎と同じ構造をしている。スギナやツクシを節ふしの部分で抜いて、元の位置に刺して「どこどこ継いだ？」と当てっこをする遊びがある。スギナの名はこの「継ぎ菜」に由来するともいわれている。本当はこの節のところにあるはかま（袴）こそが葉に相当する部分である。

スギナの仲間はおよそ三億年前の石炭紀に大繁栄し、一世を風靡した。当時はスギナに似た高さ数十メートルにもなる巨大な植物が、地上に密生して深い森を作っていたのである。この大森林を築いたスギナの祖先たちが長い年月を経て石炭となり、近代になって人間社会にエネルギー革命をもたらしたのだ。

大繁栄したスギナの祖先たちだが、長い時間の流れのなかで多くが絶滅してしまった。寒冷や乾燥など、地球に起こった大きな変化に対応できなかつたのである。しかし生き残ったスギナは、現代でももっとも嫌われる代表的な畑の雑草として活躍している。一族の末裔であるスギナは、まさに先祖の誇りにかけて現代を生き抜いているともいえよう。

何度となく絶滅の危機を乗り越えたスギナは、今も危機管理を怠らない。その秘密が



地下のシエルターである。地上にはわずか数十センチ程度の莖を伸ばすだけだが、用心深く、地下に根莖を張り巡らしているのである。この根莖は地中深くまで縦横無尽に張り巡らされ、文字どおり暗躍をする。取っても取っても畑のあちらこちらからつぎつぎに芽を出してくるのだ。

かつて原子爆弾を落とされ、すべてを失った広島で、真っ先に緑を取り戻したのがこのスギナだったという。地中深く伸びていた根莖がシエルターのように熱線を免れたのだろう。緑が戻るのに五十年はかかるといわれた死の大地に芽を吹いたスギナは、どれだけ人々の心を勇気づけたことだろう。

スギナの根莖は地の底まで伸びて閻魔大王えんま だいおうの囲炉裏の自在鉤ざいじょうになっているともいわれている。それくらい深いのだ。

しかし、見方を変えればそれだけ防除が困難な雑草ともいえる。除草剤で地上を枯らしたぐらいではびくともしない。地の底から何度でも復活してくる。多くの仲間が絶滅してしまつた今、ふたたび地上に楽園を築こうとスギナが一人で気を吐いているのだ。雑草とはいえ、これが一度、地獄を見た者の強さなのだろうか。



### スギナ

*Equisetum arvense* L.

トクサ科 シダ植物

分布 日本全国

高さ 20cm

ツクシの時期 3~4月

スギナとツクシは地下でつながっている。スコップで地下茎を掘り出してみると、スギナとツクシが同じ植物であることが分かる。地下茎は注意しないとすぐに切れるが、切れたところから新しい芽を出す性質がある。畑のスギナを退治しようと、トラクターでたがやしたらもっとふえてしまったという話がある。

スギナは、日の光を利用して栄養分をつくり、ツクシは、子供をうむために胞子をつくる。ツクシは、地面からのびた1本の薄茶色の茎と、その先に胞子を入れた袋(胞子のう)がたくさん集まった筆の先のようなもの(胞子のう穂)をもつ。それで、ツクシを土筆と書く。

胞子のう穂は、はじめは、さわると少し固くて、表面に六角形のもようが見える。この部分はキノコのカサのような形をしていて、裏側に、卵のような形の胞子のうが、6個くらいぶら下がっている。胞子のうには、緑色をした胞子がたくさん入っている。ツクシの茎がのびてしまうと、カサとカサの間が開いて、胞子のうから胞子がまかれる。胞子は、球のような形で、4本の長いひもがついている。このひもは、ぬれると縮んで胞子に巻きつき、かわくとのびる。少しばかりの雨がやんだ春の日、そよ風のなかに胞子は旅立つ。このころツクシの茎を指でポンとはじくと、緑色の胞子が煙のように散る。ツクシの胞子は地面に落ちるとまもなく発芽して、直径1cmより小さいレタスのような形の体(前葉体)をつくる。そして前葉体から、新しいスギナの子供がのび出す。



名前 スギナ

科名 トクサ科

学名 Equisetum arvense

花期 春

くきは高さ40cmぐらいいもなることがあります。

葉は細長い棒のような形で、くきをとりまくようにつきます。

花は咲きませんが、胞子(ほうし)を出すくきが、スギナよりも少し早めに生えることがあります、それが「ツクシ」です。

ツクシは筆のような形をしているため漢字では「土筆」と書きます。



ツクシ

名前の  
いわ  
れ

全体の形が「杉の木」に似ていることから。

「ツクシ」はスギナについて生えることから「付く子」という説や、土を付いて出てくることから「突く子」という説などがある。

## 栽培の特徴

### 頑健すぎる雑草。他の植物を駆逐します

トクサ科の植物で雑草。地下茎でも増えますが、孢子からでも増える。地下茎による繁殖だとツクシが出来にくいらしいです。近所でツクシを摘んできて、あたりに孢子を撒けば翌年からスギナとツクシが生えてきます。しかし、とにかく頑健で、土をそっくりやり変えても駆除できるかどうかは怪しい、そのくらい強いです。

### 庭植え？鉢植え？やめと きましょう

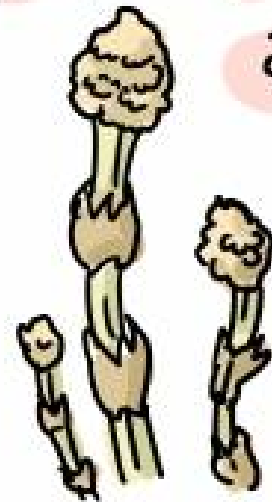
ツクシはかわいいのですが、庭に植えたほかの植物の領域を犯して、他の植物の生育不良を起こします。育てるのはやめましょう。

スギナ = ツクシです。

強かな

雑草だから

気をつけ  
ましょう







[ツクシは確かにスギナの子]

2枚のうち左側の写真、ツクシのそばにスギナが芽生え  
月12日撮影)

右側の写真はツクシの根元を掘って取り出したものです  
下茎でスギナとつながっています。

(2002年3月15日撮影)

















